

皆さん、おはようございます。

1、2年生のみなさん、進級おめでとうございます。

今年度は、コロナ禍による教育活動の制限が緩和されて、授業や行事、部活動で頑張っている姿や楽しそうな姿をたくさん見ることができました。私たち教職員も、皆さんの頑張っている姿に元気や勇気をもらいました。皆さんの頑張りに大きな拍手を送りたいと思います。

また、昨日、4年ぶりに実施されたオーストラリア研修を終えて、1、2年生20人が帰ってきました。とても充実した毎日で、ものの見方や考え方がずいぶん変わったとのことでした。後で報告してくれますので、楽しみにしててください。

さて、春は出会いと別れの季節といいますが、本校でも、2月28日に第75回卒業証書授与式があり、75期生353名が本校を巣立っていきました。晴れの門出にふさわしい厳粛で立派な卒業式でした。参列してくれた皆さん、部活で75期生を祝福してくれた皆さん、ありがとうございます。また、3月10日には令和5年度高校入試があり、524名が本校を受験してくれました。1.46倍のという、ここ数年で最も高い倍率でした。3月20日の合格発表では、ボードで自分の番号を見つけた合格者から歓声が上がリ、喜びの輪が広がりました。午後からの合格者オリエンテーションでは、多くのクラブ員が花道を作って、盛大な拍手で78期生を迎えてくれました。心温まる光景でした。ありがとうございます。4月からも78期生をしっかりと導いてください。よろしくお願ひします。

現在、日本はWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）で盛り上がっていますが、昨日の準決勝メキシコ戦の激闘はしびれました。試合後の会見で、栗山監督が「野球ってすげえなと思ってくれたら」と述べていましたが、最後まで諦めないことや信じることの大切さを改めて教えてもらったような気がします。

侍ジャパンは素晴らしい選手が揃っていますが、注目はやはり二刀流の大谷翔平選手でしょうか？大谷選手は、当初、高校卒業後すぐに大リーグに入ることをめざしていました。その大谷選手が翻意して北海道日本ハムファイターズに入団したのは、現在の日本ハムファイターズGM補佐兼スカウト部長の大淵隆さんが作った30ページに及ぶ「夢への道しるべ～日本スポーツにおける若年期海外進出の考察～」というレポートがあったからだといわれています。今日は、大淵さんが、どのような視点で人を観察しているのか？そんなマニアックな話をしたいと思います。

大淵さん自身はプロ野球選手の経験がなく、教師や会社員を経てスカウトになった異色の経歴を持つ方です。大淵さんは、日本IBMに7年勤めていた経験から、選手をコンピュータになぞらえて、身体能力や技術が「ハード」だとすれば、考える力や性格は「OS（基本ソフト）」にあたる。いくらハードが優秀でも、OSがウィンドウズ3か10かでは全く違う。より重要なのはOS、つまり「自ら考える力」があるかどうかだといひます。

では、スカウトである大淵さんはそれをどう見極めるのか？大淵さんは、先輩から「スカウティングは、最後は目に見えないものが大事だ」と教わってきたそうです。球速や身体能力など、見えるデータは評価の確認には使えるが、そこを重視しすぎるとうまくいかないことが多い。大事なものは数字にならない、「考える力」や「強い思い」といった「見えないもの」である。具体的には、第一印象はどうか？あいさつができるか？その選手の本質が判るピンチになった時はどうか？ユニフォームの着こなし、グラブの手入れ、ノートの書き方、そんなことも判断材料になるそうです。そして、スカウトした新人選手の入団時には、「君の最高のコーチは自分自身だ。自分の中に、最高のコーチを育てなさい。それができるかがとても重要だ」と伝えているそうです。

皆さんはどうか？皆さんの中に、最高のコーチはいますか？
自分を客観視して、自分をコントロールすることができますか？
もっと具体的に言えば、「自分の長期的なゴールをどこに設定し、その目標を達成するためにどのように計画を立て学習や練習に励んでいくのか」そんな将来像が描けていますか？

この春休みは、自分の中に最高のコーチを育てる絶好の機会です。ぜひ最高のコーチを自分の中に育ててください。4月にまた成長した皆揃い合えることを楽しみにしています。新学年での皆さんの一層の飛躍を期待して、終業式の挨拶とします。